

建設環境委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和6年4月24日（水）

- 2 視察先及び項目
東京都多摩市 地域公共交通計画について

- 3 参加者 委員長 古畑俊男
副委員長 たゆ久貴
岸田正義
清水がく
安田けいこ
坂井えつ子
遠藤百合子
宮下 誠
同行 若藤 実（都市整備部長）
小林 大治（交通対策課長）
随行 山浦 勉（議会事務局）

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】 令和6年4月24日	【視察先】 東京都多摩市
【視察項目】 地域公共交通計画について	
【視察目的】 多摩市は、市内公共交通網の再編と交通不便地域の解消を実行するための具体的な計画策定に取り組んでいる。今回、この取組について視察を行い、小金井市における地域公共交通計画の取組について役立てることを目的とした。	
【事業の概要】 多摩市は、地域にとって望ましい交通体系を明らかにし、交通施策を総合的・計画的に進めていくことを目的に「多摩市交通マスタープラン」を平成30年3月に既に策定している。多摩市交通マスタープランでは、まちづくりを支える市内公共交通網の再編と交通不便地域の解消を掲げており、この具体的な計画と実行のために計画期間を令和2年度から令和9年度ととし、「多摩市地域公共交通再編実施計画」を策定した。 再編の実施については、市民、交通事業者、行政が連携を強化し、共同して各種施策の展開を進め、具体的な本格運行やその後においても収支率を検証して、運行の形態を判断（トリガー方式）により、市内の公共交通の利便性の向上を実現する。	
	
【所感、課題等】 委員1 「公共交通のデザインは、すなわちまちづくりだ」とおっしゃっていたのが印象的であり、納得した。地域の声の把握に努める中で参加者が少ない場合、いただいた意見をどのようにいかしていくのかは確かに課題である。小金井市においても、課題の把握と解決策だけでなく、市が目指すまちづくりを進めるための計画策定であり、ビジョンを持って取り組む姿勢が要となる。基本的なことだが、改めてその重要性を認識した。 委員2 上位計画との整合を図るだけでなく、市内を8地域に分けて市民ニーズを把握し、市民、事業者、行政等との協働を軸に計画策定しているが、先を見据えたまちづくりの具体的な戦略とセットで考える必要があること、計画の結果に対して責任を持つこと、マスタープランは概念的なものになることを想定し、より具体的な実施計画を策定すること、バス停までの距離だけでなく高低差も含めて利便性を考慮する点など示唆に富む視察であった。 委員3 坂の多いまちだが本市とは規模が全く違い、短い距離でも高低差があり深刻な状況だ。高齢者の移動をどう担保するのか悩ましい問題。人口減少の中、乗務員確保の困難さが地域公共交通の維持に大きく影響する状況はどこの地域でも同じで明るい見通しはない中、国において、縮小していく社会構造の中で移動の自由を担保し、どのようなまちづくりをするの	

か。コモンという視点で全国的に考えなければいけない問題だと改めて痛感した。

委員 4

多摩市では多摩市交通マスタープラン及び多摩市地域公共交通再編実施計画を策定している。令和2年に計画策定後、新型コロナウイルスの感染拡大が発生し状況が大きく変化したことと、現在は2024年問題と言われる課題もあり、社会の様子を注視しながら取り組んでいるということであった。ニーズ調査は大切にしていたが大変であったことや、まちづくりとセットで地域公共交通を考える必要があるということも教えていただいた。

委員 5

多摩市では、平面上の交通網は充実しているが、高低差で見ると充実していない環境下で、交通マスタープランを作成した。ニーズ調査を大事にし、8つの地域に分けた説明会等で無理に意見をつくってしまうこともあり、客観的なデータを用いたニーズ把握等を行うなど本市同様に苦勞していた。今ある交通資源をどのように活用するのか、今ある交通への利用者をどのように増やすのか、本市にも当てはまる課題を共有することができた。

委員 6

多摩市は、地域公共交通が将来において持続可能な交通体系を維持していくための手段として、運行路線を収支比率によって民間事業者運行、補助金交付や業務委託による運行、そして収支が見合わなければ運行廃止という判断（トリガー方式）を実証実験により進めている。一見大胆な方針にも見えるが、交通事業者の経営上のリスクを抑え、採算路線に資本を投下、利用者側も公共交通を積極的、継続的に利用を担う思いも込められている。

委員 7

担当者のご説明に、「公共交通をデザインするということは、すなわち、まちづくりだと考えている」、「ただ、公共交通が充実していればよいというものではなく、こういったまちにしていくという具体的な戦略とセットで考える必要があると考えている。非常に難しいことではあるが、結果に責任を持つということだ」とあった。市全体のまちづくりを進めるために、交通政策に腹を決めて取り組んでいる様子がかがえて、感銘を受けた。

委員 8

計画策定には市民ニーズにあった事業を進めるため、多摩市交通マスタープラン策定時に聴取した市民アンケートの詳細な分析や市民ニーズの把握・課題解決のアイデアを見出すためのワークショップ、オープンハウスや報告会等を実施し、市民協働で計画策定に及んできている点を評価したい。地域の出てきた課題・解決案を整理し、施策のイメージ化したものを共有し、更なる改善を図っている。市民協働の進め方の深堀をしていきたい。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 5, 3 8 4 円

〈内 訳 (交通費)〉 委員旅費 @ 6 3 6 円× 7 人= 4, 4 5 2 円
@ 3 1 8 円× 1 人= 3 1 8 円
計 4, 7 7 0 円

職員旅費 @ 6 1 4 円× 1 人= 6 1 4 円

2 執 行 額 5, 3 8 4 円

〈内 訳 (交通費)〉 委員旅費 @ 6 3 6 円× 7 人= 4, 4 5 2 円
@ 3 1 8 円× 1 人= 3 1 8 円
計 4, 7 7 0 円

職員旅費 @ 6 1 4 円× 1 人= 6 1 4 円

3 差 引 残 0 円